

令和3年度 宇都宮市立陽西中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

国、県、市の方針や地域の実態を踏まえるとともに、「人間尊重の精神」を基盤として、個性豊かで情操に富んだ人間として、平和で民主的な社会の発展に貢献できる日本人の育成を目指す。

(2) 具体目標

生徒の指標（生徒の信条）

- 敬愛の心があつく心情豊かな生徒
- よく考え主体的に行動できる生徒
- 体力気力の充実した健康な生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

第2次宇都宮市学校教育推進計画にある目指す学校の姿「誰もが安心して学べ、活力にあふれる学校」を理念として学校経営に努める。

(1) 学校テーマを本年度も「温もりのある学校・やる気あふれる学校・外へ開かれた学校」とする。令和2年度学校マネジメントアンケートにおいて、令和元年度と比較のできる16項目中、14項目において肯定的回答割合が向上した。学校の取り組みが、一定の効果を上げたと考えることもできる。今年度は、学校教育活動において、生徒一人ひとりの自己肯定感を高め人間関係構築力等の育成に努める中で、ともに支え合いながら様々な困難を乗り越えていこうとする生徒を育成できる学校づくりを目指す。

(2) 学校テーマを達成するためには、教職員一人ひとりが、教育への情熱と使命感を持ち信頼できる教職員を目指し、多様な教育的ニーズをもった生徒の状況を理解し、適切な指導・支援が行える教職員集団の形成が必要である。そのために、生徒理解を深めるための研修、コンプライアンス研修、各教科経営計画の継続的な見直しを含む研修等を効果的に行い、下記の信頼される教職員を目指す。

- ① 公教育に従事する者としての自覚と使命感にあふれる教職員
- ② 生徒の個性を尊重し、共にのびてゆく教職員
- ③ 厳しく、温かく、公平で、信頼される教職員
- ④ 常に研究と修養に励み、健康で魅力あふれる教職員
- ⑤ 社会人として生徒の模範となる責任ある行動がとれる教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「令和2年度学校マネジメントシステム全体アンケート」の生徒の肯定的回答割合は、昨年度より向上しているが、「宇都宮市学習定着度調査～学習と生活についてのアンケート～」結果とあわせて傾向を見ると、「粘り強い取組」や「自己肯定感」に課題が見られた。そこで以下の取組により、「誰もが安心して学べ、活力にあふれる学校」を目指す。

(1) 温もりのある学校づくり

- ・教職員が、多様な教育的ニーズをもった生徒の状況を理解し、適切な指導・支援をチームとして行い、生徒・保護者・地域から信頼されるよう努める。
- ・生徒・保護者・教職員相互の望ましい人間関係づくりに努める。
- ・校舎内・校庭等における環境美化に努める。
- ・校舎内、廊下、壁面等の掲示物の充実に努める。

(2) やる気あふれる学校づくり

- ・学習指導の充実に努める。（授業力向上、わかる授業の展開、家庭学習の定着等）
- ・特別支援教育の理念を生かした教育の充実に努める。
（校内支援委員会・個別指導の充実と関係機関との連携、生徒の個性に応じたきめ細やかな支援・指導等）
- ・心の教育の充実に努める。（思いやりの心や社会貢献の精神の醸成を図る指導等）
- ・生徒指導、教育相談の充実に努める。（社会規範意識の醸成、自己肯定感の育成、望ましい集団活動の推進、組織的計画的な校内支援による生徒理解等）
- ・体力の向上と健康安全教育の充実に努める。（新体力テスト経年変化からの体力向上、防災教育推進、給食指導・食育の推進、健康管理・指導等）

(3) 開かれた学校づくり

- ・保護者や地域、関係機関・団体等との連携を密にし、相互の信頼関係に立って本校の教育にあたりとともに、開かれた学校づくりに努める。
- ・学校ホームページを効果的に活用し、情報の発信に努める。

(4) 実効性のある小中一貫教育の推進

学習指導要領が改訂され、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中間まとめ）を踏まえ、「学習内容度定着調査～学習と生活についてのアンケート～」から、地域学校園内で共通する課題を自己肯定感の育成ととらえ、協働的な学びを通して、自己肯定感を育む教育活動を推進することとした。

〔陽西地域学校園教育ビジョン〕

「自己のよさを生かすとともに、他者を尊重し、粘り強く頑張る子どもの育成」
～協働的な学びを通して、自己肯定感をはぐくむ教育活動の推進～

(5) 学校における働き方に関する視点

- ・生徒理解・支援の際、校内ケース会議を有効活用し、効果的な対応が取れるようよう努める。
- ・校務分掌を見直し、校務の明確化、適正化に努める。
- ・リフレッシュデーを毎月導入し、勤務時間を意識した働き方の推進に努める。

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ①関係法令、学習指導要領、栃木県教育振興基本計画 2025(とちぎ教育ビジョン)、第2次宇都宮市学校教育スタンダードや第2次学校教育推進計画(うつのみや いきいき学校プラン)に基づき、地域の実態や生徒の発達段階、特性を考慮した特色ある教育活動を展開し、公教育の自覚のもとに、全教職員の理解と協力によって、本校の教育目標の実現を期す教育課程とする。
- ②「人間尊重の精神」を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指し、各教科、特別の教科道徳(以後道徳科)、特別活動、総合的な学習の時間の相互の関連と調和を図る。
- ③学習指導要領に基づいた各教科の目標・指導内容を明確にし、基礎的、基本的な内容の確実な定着と個に応じた適切な学習支援や習熟度別学習等の工夫を図り、個性の伸長と学力向上を目指す教育課程とする。
- ④生徒の体力向上及び心身の健康の保持増進に努め、心と体の健康に関する指導や食育をより充実する教育課程とする。
- ⑤特別支援教育の趣旨に基づき個に応じた指導体制の整備に努め、学校内外の関係機関やそれらの支援機能を生かした運用を図る。

(2) 留意点及び工夫

- ①自己実現のための意欲の向上を図るキャリア教育の推進を教育課程に位置づけ、総合的な学習の時間、特別活動、道徳科での指導を工夫し、地区内小学校とのつながりがもてる社会性育成のプログラムとなるよう努める。
- ②総合的な学習の時間は、3年間を通した「生き方学習」カリキュラムにそって、問題解決学習の手法での指導により、発表力、コミュニケーション力の育成の場となるよう、学年発表会の公開を含めた指導計画の推進に努める。
- ③宇都宮市小中一貫カリキュラムに基づき、地区内小中教員の交流を図る授業公開や連絡会義を年間行事予定に位置づけ、部会運営を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学校運営 】 「温もりのある学校・やる気あふれる学校・外へ開かれた学校」

【 学習指導 】 「協働的な学びを通して思考を深め、主体的に学ぶ生徒の育成」

【 児童生徒指導 】 「きまりを守り、正しい判断のもと主体的に行動する生徒の育成」

【健康(体力・保健・食・安全)】 「健康課題に関心を持ち、心身ともに健康な生活を営むことができる生徒の育成」

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① ○「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業改善に努め、「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し、実践する。 ② 定期テスト前の質問学習やテスト後の補充プリントの作成、学習サポート、教科部会の効果的实施等学校体制として取り組む。 ③ 家庭との連携を図りながら、自主学習ノートの指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は94.1%で、昨年度を2.0P上回っている。 ・感染防止対策に配慮が必要な中で、様々な工夫を取り入れ、「対話」を取り入れた授業づくりに努めた。 ・家庭学習の習慣化を図るために自主学習ノートの指導を行った。また、自主学習用のプリントを用意するなど生徒が取り組みやすい環境を整えた。 【次年度の方針】 ・感染防止対策に配慮しながら様々な形態を工夫し、協働的な学びを取り入れた授業づくりに努める。 ・教科部会で、生徒の学習意欲を引き出せるような指導法の実践例やICTの有効な活用法などについて共通理解を図る。 ・自主学習の取り組み方について、授業の中で説明し、実践させる機会を設ける。また、生徒が自主学習の有用性を実感し、主体的に学習に取り組めるよう支援する。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 道徳の授業を通して、自己理解を深め、自分のよさを知ることによって自己肯定感を高めさせるなど、思いやりの心について考えさせる。 ② 道徳の年計を見直し、道徳の授業と学校行事を関連させたり、体験活動を位置付けたり、様々な体験を想起させたりすることで、道徳的实践につながるようにする。 ③ 生徒の良さを褒めて伸ばす教育をすることにより、自己肯定感を育む。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は97.1%で、昨年度を12.9P上回っている。 ・道徳の授業で、思いやりの心について深く考えさせることを通して、生徒の優しい心を育むとともに、自己肯定感の醸成に努めた。 【次年度の方針】 ・道徳に授業で学んだ「思いやり」を日々の日常生活で常に意識できるような声かけや雰囲気づくりを学校全体で取り組んでいく。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① チャイム着席、授業の開始・終了時のあいさつができるようにするとともに、服装や姿勢を整えて授業に臨めるよう指導する。 ② 教職員の共通理解、共通指導の充実を図る。 ③ 学業指導の充実とともに、きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を、生徒の主体的な関わりを増やすよう工夫する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は85.6%で、昨年度を1.7P上回っている。 ・チャイム3分前着席の励行等、リーダーを中心に主体的に継続した取組を行うことができた。 【次年度の方針】 ・教師の率先垂範を基本とするとともに、教職員の共通理解・共通指導の徹底を図り、ルール作成等に生徒の主体的な関わりを増やす取組を工夫することで、引き続き規範意識向上の醸成を図る。

A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 時と場に応じた心のこもったあいさつの仕方についての指導を充実させるとともに、本校のよき伝統として継承していく。 ② 日常生活の中でのあいさつ指導に加え、生徒会各委員会や部活動等による、生徒主体のあいさつ励行を推進する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は91.2%で、昨年度を22.8P上回っている。 ・生徒は、時と場に応じた明るくさわやかなあいさつができる。本校の伝統的なよさとして継承する雰囲気醸成されている。 ・地域学校園小中合同あいさつ運動を行う等、あいさつの活性化を図ることができた。 【次年度の方針】 ・日常生活における継続的なあいさつ指導に加え、生徒会活動等を通して、生徒の主体性を高めるよう、感染防止対策を講じながら、計画的に実施する。
A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 学年・学級・生徒会専門委員会・部活動ごとに目標を決めたり、学校行事のスローガンを設定したりすることにより、目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ② ○進路学習やキャリア教育の充実を図りながら、自分の良さや個性を理解し、将来の夢をもたせ、夢の実現に向かってあきらめずに努力する態度を育成する。 ③ 各学級・専門委員会・部活動において、振り返りを行わせ、生徒自らの取組を今後に生かす指導を充実させる。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は85.3%で、昨年度を24.8P上回っている。 ・行事等の実施が難しい状況の中でも、生徒に目標をもつことや努力することの大切さを意識づけることができた。 【次年度の方針】 ・学級活動や総合的な学習の時間、学校行事を通して、自己理解や将来の夢の実現に向けて努力することの大切さを考えさせるよう充実を図る。 ・「Willナビ」等を活用し、生き方や夢の実現に向けて努力することの大切さを考える場面を設定する。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 「うつのみや元気っ子プロジェクト」を活用するなど、食育や体育的活動の充実を図り、自分に合ったバランスのよい食生活をするとともに、体力増進に努めるなどして、生涯を通して健康な生活を送ろうとする態度を育成する。 ② 「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」「がん教育講演会」「いのちの授業」「性教育出前講座」等を実施して、健康や安全への意識の向上を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は91.2%で、昨年度を22.8P上回っている。 ・お弁当の日や給食指導を中心にした食育の強化及び体育の授業内での体力増強プログラムの実施、また外部講師による出前講座の活用で、生徒が健康・安全に過ごすことができる能力向上のための取組が実現できた。 【次年度の方針】 ・「うつのみや元気っ子プロジェクト」に則り、健康、体力、食育、安全の4つの柱から総合的に生涯を通じて健康で安全な生活ができる能力の育成に努める。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 各教科・道徳・総合・特別活動等学校教育全体を通して、基礎的・汎用的応力の育成に努め、キャリア教育を推進する。 ② キャリアパスポートの作成を通して、自分と社会のつながりを意識したり、未来の自分のイメージを持つことにつなげさせるなど、勤労観や職業観を育む。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は85.3%で、昨年度を24.8P上回っている。 ・特別活動等における「キャリアパスポート」の作成を通してキャリア教育を推進することができた。 【次年度の方針】 ・学校教育活動全体を通し、社会や自分とのつながりを考えさせ、勤労観や職業観を育むための学習を計画的に実施する。

A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 英語科の授業において、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動を多く取り入れる。 ② A L T の各学級への給食訪問や学校行事等への参加を通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 81.1%で、昨年度と同程度である。 ・英語科の授業において、コロナ禍における配慮を加えた上で、英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動や A L T と直接やりとりをするような場面を設定し、実践することができた。 【次年度の方針】 ・A L T が、積極的に各学級へ休み時間の交流、学校行事等への参加を通して、生きた英語に触れる機会を一層充実させる。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒が地域でのボランティア活動に積極的に参加し、地域の人々との交流を図りながら、地域に関心を持ち、地域の良さを知ることができるように充実を図る。 ② 「総合的な学習の時間」に地域を知る活動（宇都宮学）を取り入れる。 ③ 給食の献立に「地産地消」の食材を用いるようにし、栄養教諭による献立の説明で宇都宮の農産物について理解・関心を深めさせる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 79.3%で、昨年度を 5.4P 上回っている。 ・宇都宮学が位置づけられ、教科書をもとに、各学年、計画的に進めることができた。 ・献立に旬の地域食材を生かしたメニューを取り入れた。また、詳しい説明を昼の放送等を使って行うことで、地域の農産物を生徒に周知することができた。 【次年度の方針】 ・コロナ禍の状況を注視しながら、地域の人々とのボランティア活動を実施する。
A 10 生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 各教科等において、効果的な I C T 機器（個人用パソコン）の利用を促進し、学習効果を高める。 ② 図書館司書の授業参画を図ったり、生徒会専門委員会の活動を工夫したりするなど、図書館の利用促進を図る。 ③ N I E 活動を推進し、新聞に親しむ態度を育成する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 68.9%で、昨年度を 13.0P 上回っている。 ・GIGA スクール構想により、I C T 機器の活用を推進することができた。 【次年度の方針】 ・1人1台 P C の利用をさらに活発にできるよう啓発をしていく。 ・N I E 活動を引き続き推進していく。 ・図書館司書の積極的な授業への参画を図る。
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 道徳・家庭科の授業において高齢者や弱い立場の方などへの感謝やいたわりの心を醸成する題材を扱う中で、生徒の心を育む。 ② 特別活動や総合的な学習の時間の中で、高齢者疑似体験等の福祉体験活動を取り入れる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.3%で、昨年度を 3.1P 上回っている。 ・道徳の授業で、高齢者への感謝やいたわりの心を醸成する題材を取扱い、思いやりの心の育成を心がけた。 【次年度の方針】 ・自分たち中学生が今生活できているのは高齢者の方々の努力があって成り立っていることを日々伝え、尊敬の気持ちを持てるように指導する。 ・総合的な学習の時間において、新たに福祉体験活動を実施することを計画する。

目 指 す 学 校 の 姿	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 学級活動や総合的な学習の時間等において、「SDGs」についての理解を深める学習を位置づける。 ② NIEの活動を通して、新聞を用いて、環境問題や防災等について学ぶようにする。 ③ 生徒会専門委員会の活動を工夫し、環境問題に関心をもたせるために、節電・節水や3R活動を実践させるなど、身近なところからできることを意識させる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 50.0%で、昨年度を 7.9P 上回っている。 ・NIEの研究指定校として、新聞の内容を題材にした環境問題に取り組んだり、ボランティア委員会を中心に活動したりした。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間に SDGs の学習を位置づけるとともに、環境・防災を扱う授業を学級活動で取り入れる。
	B1 生徒は、体育祭、文化祭、地域ボランティア活動に積極的に参加し、協力して活動している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事に、生徒の意見や創意工夫を取り入れるようにする。 ② 地域のボランティア活動を推進するための働きかけを積極的に行うとともに、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.8%で、昨年度を 4.1P 下回っている。 ・ボランティア活動は実施できなかったが、感染症対策を講じながら、生徒の自主性を引き出すような活動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・時期や方法などを十分に検討し、立案の段階から生徒の意見を入れられるよう工夫を図る。 ・学校行事等では、より充実感の味わえる行事の設定について、教職員の共通理解のもとで再検討する。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて指導カルテを作成したり、ケース会議を実施したりして、適切な支援ができるようにする。 ② 生徒指導部会や教育相談部会で、生徒の状況についての情報共有や意見交換を活性化させ、組織的・段階的な対応を検討する。 ③ ユニバーサルデザインについての研修を深め、授業の中に取り入れることにより、合理的配慮への意識の向上を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 97.1%で、昨年度と同程度である。 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、個別の指導カルテの活用やケース会議の開催、部会等で生徒の状況について共通理解を図ることができた。また、必要に応じて他機関と連携しながら積極的支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・情報の共有を図り、必要に応じて他機関等との連携を図りながら、段階的・組織的な対応を行う。 ・生徒指導カルテを継続して作成し、学年ケース会議などで活用する。

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	① 生徒が相談しやすい環境を整備するとともに、教職員は生徒理解を深め、信頼関係の構築に努力することで、いじめの早期発見に努める。 ② 生徒主体の「いじめ根絶集会」を実施するとともに、教職員は「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識の下、いじめ防止対策についての取組をより充実させ、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ③ 教職員が自らの人権感覚を磨くための研鑽に努め、いじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるために校内研修を充実させる。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 86.5%で、昨年度を 4.5P 上回っている。 ・いじめ根絶集会を実施し、未然防止のための取組を行った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、生徒との信頼関係構築に尽力する。 ・いじめの起こらない環境作りに努め、「いじめ根絶集会」を効果的に学級への問題提示の機会とする。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	① スタンダードダイアリーを活用したり、教育相談を行ったりして、生徒一人一人に寄り添った指導をする。 ② 保護者との電話連絡や必要に応じた家庭訪問を行うなどして、家庭との協力関係を構築する。 ③ 風通しの良い職場環境の維持に努めることで、気になる生徒の早期発見、早期対応を可能にし、校内支援体制を活用して、新たな不登校の生徒を生まないよう支援する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 92.6%で、昨年度を 1.0P 上回っている。 ・ダイアリーの活用や教育相談活動、保護者との連絡を密に取り、また、必要に応じて家庭訪問を実施し、一人一人の生徒に寄り添った指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・校内支援体制を充実させるとともに、効果的に活用し、生徒の心身の健康状態の変化等に対応するなど、新たな不登校生徒を生まないよう支援する。 ・風通しのよい職場環境の維持、また情報の共有と、多方面からの支援を行っていく。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 外国籍の生徒や保護者の実態を把握するとともに、ニーズや困り感を確認し、学校生活や進路相談等がスムーズになされるよう支援する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 97.1%で、昨年度と同程度である。 ・日本語指導が効果的な生徒に対し、日本語指導ボランティアと連携し、支援を行った。 【次年度の方針】 ・様々な機関と連携し、外国籍の生徒や保護者との密なコミュニケーションを常に意識し対応する。 ・保護者との面談等においても、必要に応じて依頼し、十分な意思疎通を図る。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 学校行事等を通して、生徒が目的意識をもって協力しながら主体的に活動して達成感や自己肯定感を得られるような場を設定し、活動を支援する。 ② 生徒会活動を通して、生徒の自主的な活動を推進するとともに、委員会活動の活性化を図る。 ③ 学級経営や教育相談を充実させ、「居がい」のある明るい学校づくりに努めるとともに、教職員間の柔軟な意見交換を活性化させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.8%で、昨年度を 1.9P 下回っている。 ・コロナ禍においては、行事等の実施に制限等があったが、生徒は限られた環境の中で、主体的に動き、成果を収めた。 【次年度の方針】 ・学校行事、生徒会活動は、生徒が主体的に運営が行えるような場を設定する。 ・各学年共通理解のもと、学級経営の充実を図り、教育相談体制の強化も図る。 ・教職員間で柔軟な意見交換ができる環境作りに努め、活性化を図る。

A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 個に応じたきめ細かな指導を行う。数学科及び英語科においては、習熟度別学習やT・Tなど、指導形態を工夫し、学力を向上させる。 ② 日々の授業で、学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ、生徒が主体的に深く考え、取り組めるような授業の展開を実践する。 ③ 新学習指導要領の実施に伴い、授業改善や評価計画の充実を図るとともに、「一人一授業公開研修」実施により、教員の授業力向上に努める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.5%で、昨年度を2.9P 上回っている。 ・英語科・数学科では、習熟度別学習やT・Tなどの指導形態を工夫し、ICT機器の活用や「ユニバーサルデザインの視点」を生かした授業づくりを行うなど、個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・習熟度別学習やT・Tなどの指導形態を工夫し、さらに個に応じたきめ細かな指導を心掛ける。 ・生徒の主体的で深い学びを実現するため、指導法の工夫やICTの利活用に取り組む。特に各生徒が持つタブレットやデジタル教科書を積極的に活用し、分かりやすい授業の展開を工夫する。 ・「一人一授業公開研修」の実施、その後の全体研修でのまとめ（振り返り）を実施することにより、教員の授業力の向上に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① SC, MS, かがやきルーム指導員、学校図書館司書等との連携を強化しながら、チームとして生徒の状況の把握と支援に努める。 ② 配慮を要する生徒について、多様な立場や観点からの生徒の見取りや専門的な知見を、指導に生かす。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で、昨年度を7.9P 上回っている。 ・支援を要する生徒の対応において、SCMや特別支援教育コーディネーターが支援の窓口となり、学年や関係教職員、MS、SCと連携を図りながら、教育相談部会として支援の場や支援者を調整するなど、チームとして支援を行った。 【次年度の方針】 ・配慮を要する生徒の支援の状況や方向性などを、全職員で共有することで、校内支援体制の強化に努める。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員一人一人が、ミライムを活用して出退勤時刻の記録を確実に行うようにする。 ② 業務の効率化を図るとともに、会議や研修等の効率化と内容の精選を図る。 ③ 定期的に「リフレッシュデー」を設定したり、部活動の休養日を設けたりして、教職員の負担が軽減できるよう配慮する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 52.9%で、昨年度を7.6P 下回っている。 ・職員へ定期的に周知し、出退勤記録への意識の向上を図るとともに、コロナ禍による部活休止期間を利用した会議や研修等の実施については効率化につながった。 ・業務の効率化を図るよう努め、定期的にリフレッシュデーを設定したが、GIGAスクール構想や教育相談等対応が必要な事案も多く、負担の軽減は限定的である。 【次年度の方針】 ・業務の効率化を図るとともに、会議や研修をオンライン等で実施するなど、可能な範囲で軽減を図る。

A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① ○教職員が、小中一貫教育の重要性についてさらに理解を深め、業務の精選を考慮しながらも、生徒や職員の交流や連携による実践(あいさつ運動)を行う。 ② ○小中一貫各部会において、地域学校園内児童生徒の課題を的確に把握・分析し、必要に応じて連携を図りながら、実効性のある取組を推進する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 79.4%で、昨年度を 7.4P 下回っている。 ・小中乗り入れ授業やあいさつ運動においては、計画通り実施し、成果を上げた。 【次年度の方針】 ・感染症予防を徹底したうえで、各行事の意義を再確認し、行事・取組を実施する。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 望ましい職業観や勤労観を養うために、地域や家庭、外部機関や企業等との連携・協力を深めた授業や体験活動を行う。 ② 「よさこい踊り」や「苗植え・稲刈り体験」「わかくさ特別支援学校との交流」、「地域のボランティア活動」等を継続、充実させ、地域のよさを感じ取ったり地域の一員としての自覚を高めたりさせる。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 94.1%で、昨年度を 5.9P 下回っている。 ・コロナ禍の影響により、地域の様々な行事が中止になった。 【次年度の方針】 ・感染症予防を徹底したうえで、地域との関連行事や体験活動、ボランティア活動を実施する。 ・地域の一員としての自覚を、学校行事や総合的な学習の時間を通して高められるよう手立てを講じていく。
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	① 学校HPや各種だよりを活用して積極的に情報発信を行い、学校の教育活動に対する理解と協力が得られるようにする。 ② 家庭訪問、保護者会、三者懇談、オープンスクールなど様々な機会を捉えて家庭や地域との連携を図り、よりよい生徒の育成に努める。 ③ 陽西中学校地域協議会との連携を図り、地域の祭りや清掃などの奉仕活動に積極的に取り組む。また、「未来会議」を実施するなど、意見交換の機会を創生する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 86.2%で、昨年度と同程度である。 ・コロナ禍の影響で、保護者会や各種地域との交流等は中止になった。その中でも、学校HPで学校行事や生徒の様子を発信したり、学校からの一斉メールを活用したりして、保護者の理解と協力を得られた。 【次年度の方針】 ・生徒のみの取組と共に、生徒と地域、保護者と連携した取組についても、学校HPや各種だよりで情報を発信する。
A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 安全点検を、毎月確実に行うとともに、改善箇所の修繕を迅速に実施する。また、避難訓練の実施方法を見直し、より実践的な態度の育成を図る。 ② 台風や地震、大雨などの自然災害発生時には、校舎内外の巡視を行い、危険回避に努めるとともに、危険箇所の発見と早期対応ができるようにする。 ③ 事務部と連携して、学校予算の適切な運用を図り、環境整備に努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 97.1%で、昨年度を 2.9P 下回っている。 ・安全点検を毎月確実に実施し、破損箇所等の把握や修繕を行った。業者依頼する事案については、学校予算等を有効に活用して迅速に対応した。 ・コロナ禍のため、実践的な避難訓練は実施できなかったが、ビデオ視聴による災害時の対応等について安全指導を行った。 【次年度の方針】 ・これまで同様、事務部との連携を図り、環境整備を行っていく。 ・様々な状況や場面を想定した訓練の実施を検討し、より実践的な避難訓練を目指すとともに、日常での指導を通して生徒の安全への意識向上を図る。

本校の特色・課題等	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 図書選定委員会を計画的に開催し、学習に必要な図書を整備する。 ② 教員のＩＣＴ活用能力を高めるために、教職員の研修を行う。 ③ 授業等における積極的な活用（個人用パソコン・ＡＩ型ドリル等）を図るために、適切な管理・運営方法の改善を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は91.2%で、昨年度を12.3P上回っている。 ・総合的な学習の時間などで図書館の活用やＩＣＴ利用を推進することができた。 【次年度の方針】 ・授業の中で生徒がＩＣＴ機器を主体的に活用し学習する場面を、より多く計画的に設定する。
	B2 学校は、授業以外に、さまざまな学習の場を工夫して設定し、学力向上に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	① 基礎学力の定着、学力の向上を目指し、放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポート、土曜日学習サポートを実施する。実施方法に改善を加え、より効果的な運営に努める。 ② 地域協議会と連携した、学力向上のためのサポート事業を企画、運営する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は94.1%で、昨年度を5.9P下回っている。 ・平日放課後のレベルアップ学習や土曜学習サポート等について、地域協議会の協力のもと、実施することができた。 【次年度の方針】 ・放課後のレベルアップ学習、土曜学習サポートを継続し、更なる基礎学力の定着、学力の向上を目指す。 ・地域協議会と連携し、運営方法や実施方法等について再検討する。
	B3 学校は、教室や廊下の掲示物を工夫したり花壇を整備したりして、環境美化に努めている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	① 生徒の心を育てるための、「フラワープロジェクト」を推進する。 ② 美化委員会及び、各学年委員会を中心とした役割分担を明確にして、主体的に活動に参加できるようにする。 ③ 各学年フロアの掲示物を工夫しながら、計画的に作成する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は95.0%で、昨年度と同程度である。 ・校内の掲示物を定期的に更新したり、各学年ごとにフラワープロジェクトなどの校内環境美化に力を入れた。 【次年度の方針】 ・心が温かくなるような掲示物や花壇の整備を生徒主体で実施し、豊かな心を育む。 ・美化委員会や学年委員会を中心として、学校環境をよくするために生徒が主体的に活動を行うようにする。 ・校内の環境整備を強化し、各学年フロアの掲示物を計画的に作成する。
	B4 生徒は、交通ルールを守って、安全に行動している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	① 教職員による登下校時の交通指導や見守りをより充実させる。また、交通ルールの遵守や交通マナーの向上について、生徒の主体的な関わりを意図的に設定するなど、学年や学級で繰り返し指導する。 ② 生徒の意識を高めるために、交通安全教室に外部指導者を招聘するなど、内容を工夫する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は83.9%で、昨年度と同程度である。 ・登下校指導の徹底や通学路調査などを実施し、生徒の安全に関する意識を高める取組を行った。 【次年度の方針】 ・生徒の意識をより高めるため、安全指導内容の工夫改善や、生徒主体の取組の実施を検討する。 ・立哨指導を継続して行い、規範意識の向上を図る。また、交通ルール遵守やマナー向上にむけた意識の醸成を図る。

（同程度：±1ポイント以下）

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【数値指標に対する評価から】

・数値指標を達成している（または同程度と考えられる）項目は、全 29 項目中 26 項目(89.6%)で、そのうち教職員対象のものは 14 項目(16 項目中、62.5%)、生徒対象のものは 8 項目(9 項目中、88.9%)となり、達成度は高い。今後の継続的な取組を強化していきたい。特に、A10「持続可能な社会(SDGs)」A20「教職員の業務効率化」についての取組は今後の重要課題である。

【経年変化による評価から】

・経年変化で評価結果の推移を見ると、教職員は 23 項目(29 項目中、79.3%)が、生徒は 19 項目(24 項目中、79.2%)が昨年比で同程度以上である。学校全体が、落ち着いた環境の中で取り組んでいる様子が見られる。

・昨年度に比べれば、コロナ禍による教育活動の制限は緩和され実施できた行事等もあるが、依然としてこれまでとは違う視点で実施方法の検討や変更が余儀なくされた。評価結果からは、昨年度の経験からくる変化や、一人 1 台 P C の導入による変化が見られている。

・特に、A3(規範意識)や A4(時と場に応じたあいさつ)、A5(粘り強さ)、A6(健康安全)、A7(夢や目標)の項目については、大幅に(20 ポイント以上)改善されている。

・A20(教職員の働き方改革)では、52.9%となり、いまだ課題として残る。新型コロナウイルス感染症や GIGA スクール構想による端末操作の研修等、新たな業務も加わり、昨年からは 7.6 ポイント下回っており、今後の業務改善は急務である。

【今年度の重点目標等の観点から】

・「学習指導の充実」では、感染防止対策により、学習活動の制限がある中、様々な「対話」(グループ活動)に取り組み、わかる授業の展開に努めた。また、家庭学習の習慣化のために、自主学習用ノートの取組の継続や、A I 型学習ドリルの利用等により、今後の学力向上が期待されるところである。今後も、「主体的に学ぶ」生徒の育成を目指し、わかる授業の展開や I C T 機器や A L T(英語指導助手)の活用を充実させ、学力向上への取組を強化していきたい。

・「生徒指導」では、主体的に行動する生徒の育成を目指しているところであるが、実施方法に制限がある中でも、リーダーを中心に工夫した学校行事を実施し、生徒や教職員の集中力や対応力の高さを感じることができた。今後もさらに規範意識の向上を目指した取組を継続していきたい。

・「健康管理」では、新型コロナウイルス感染防止として、様々な対策を講じてきた。特に、家庭においての毎朝の検温徹底や昇降口においてのサーマルカメラでの体温確認、換気の徹底やこまめな手洗いの奨励など、学校及び保護者、地域の連携のもとで、安心安全な学校生活を維持することができた。

・「学校運営」としては、組織力の強化を図ることができた。特に、不登校・不適応生徒への支援の充実を図るために、スクールカウンセラー(SC)、メンタルサポーター(MS)、関係相談機関等との組織的な対応を継続することができた。

・「学校の特色ある教育活動」として、フラワープロジェクト(校内環境整備)や放課後学習支援、夏休み学習サポート、土曜学習サポートの充実に努めてきた。生徒・教職員・外部講師の熱心な取組の継続により、成果が上がりつつある。今後も地域協議会との連携を図りながら充実を図っていきたい。

7 学校関係者評価

「自己評価」及び「次年度の方針」については、「適切」100%，という評価であった。

【自己評価】に関わること

- ・校長がリーダーシップを発揮し、学校運営の中期的方向性と短期的目標を提示した結果、学校内で共有され、高い数値指標を達成している。
- ・学校の状況を確認する機会が少なかったが、どの学年も落ち着いて授業に取り組み、生き生きと学校生活を送っている現状を見せていただいた。

【次年度の方針】に関わること

- ・今年度の達成状況を分析し、評価の高い項目については更に向上を期待している。また、三者の評価の差に違いがある項目及び評価の低い項目については、質問の意図も分析しながら考慮していくとよい。
- ・引き続き、学力の向上、校舎等の環境整備にご尽力いただきたい。

○学校教育活動全般について

- ・今年度も、新型コロナウイルス感染症の収束がないまま過ぎてしまった。学校の様々な活動が突然制限されたり、中止に追い込まれたり、現場では休まることのない日の連続であったろうと推測する。
- ・コロナ禍の中、様々な工夫で取組を進めていることは称賛に値する。生徒や先生方の一生懸命な姿や元気な挨拶、勉強への取組はとて素晴らしい。
- ・今まででは考えられなかったことに備え、危機管理の大切さも重要である。特に、いじめによる事件等の発生がないよう、生徒一人一人に目を向けた指導・支援をお願いしたい。
- ・「教職員の業務効率化」に努めていただき、授業の準備や生徒たちと向き合う時間の確保をお願いしたい。そのためにできることがあれば、協力をしていきたい。
- ・学区内の児童養護施設における社会的養護の必要な児童生徒に対し、適切な学校運営を行っていることに感謝したい。引き続き、連携を図っていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度も、「コロナ禍」における学校教育は困難を極めたが、生徒、教職員の工夫ある取組により、また保護者や地域の支援をいただいたことにより、学校生活全般において活気が見られ、良好な状態である。

次年度は、今年度の成果と課題を踏まえ、十分に検証をした上で、より実践的で効果的な取組を継続させていきたい。

- ・学力の向上を図るために、教員は生徒にとっての「わかる授業」の展開に努める。特に、GIGAスクール構想に伴うICT教育の推進を図り、授業での取組を強化していく。
- ・効果的な学校図書館の利活用を図り、生徒の読書活動の推進を強化していく。
- ・特色ある取組としての、「放課後学習支援・土曜学習サポート・夏休み学習サポート」を継続・充実させ、学びの保証に向けても取り組んでいく。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動などの機会をとらえ、生徒が主体的に活動できるような場면을積極的に、意図的に設定し、生徒の達成感や自己肯定感を高められるようにする。
- ・学級活動や総合的な学習の時間、学校行事における集団意思の決定やルール作り等の場面で、リーダー的な生徒の育成とともに、互いに成長させるための手立てを意図的に図る。
- ・不登校・不適応生徒への支援については、これまでの取組の成果を生かしつつ、引き続き個の特性や状況に応じた適切な支援方法を検討し、関係機関と連携を図りながら充実に努める。
- ・生徒一人一人に向き合い、生徒理解を深めながら、いじめの未然防止に努めるとともに、早期発見・早期対応ができる学校組織の構築を推進する。

○・あいさつ運動の強化を図り、時と場に応じた言動ができる生徒の育成を目指す。

○・小中一貫教育の持続可能な取組を検討しながら、充実を図る。

- ・ボランティア活動の充実を図り、地域に貢献できる生徒・学校づくりを推進する。
- ・「開かれた学校」を目指し、保護者や地域住民が学校教育に参画する機会を増やすとともに、各種便りの発行や学校HPにより、積極的に発信し、学校への理解と協力が得られるように努める。